



Title	第2部 DXに関する事例報告
Author(s)	長嶋, 岳生; 原, 亜喜子; 加藤, 舞 他
Description	国立大学図書館協会地区協会助成事業北海道地区協会令和6年度企画事業「図書館業務におけるDX化の現状と課題について」. 令和6年12月3日(火) 13:15-15:30. オンライン形式. 主催: 国立大学図書館協会北海道地区協会
Issue Date	2024-12-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93750
Type	conference presentation
File Information	1_Nagashima.pdf, 北大・長嶋_DXに関する事例報告





北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

DXに関する事例報告 - 北海道大学

国立大学図書館協会北海道地区協会 令和6年度企画事業
「図書館業務におけるDX化の現状と課題について」

2024年12月3日

北海道大学附属図書館事務部研究支援課理農系グループ
理学部図書担当、北海道大学DX業務推進室（職務付加）

長嶋岳生

- 報告者が職務付加室員として従事する北海道大学DX業務推進室の射程は「事務DX」です。
- 携わった取り組みのうち、大学図書館に勤務されている方に興味を持っていただけそうな話題に的を絞ってお話します。
- ですので、お話するのは北海道大学のDXのごく一部分です。

1. 北海道大学の事務職員におけるTeamsの受容と、DXへの個人的所感
2. 北海道大学事務DXの概要
3. すぐやるプロジェクト「事務用消耗品リサイクル」
4. すぐやるプロジェクト「事務DX推進のための電子ブック利活用について」

本学の事務職員におけるコミュニケーションツールについて



- 本学の事務職員においては、本学のMicrosoft包括ライセンスにより使用するTeamsの使用を推進
- 2021年11月18日付け「「北海道大学事務職員Teamsガイドライン」の策定について（通知）」でTeamsを推奨
- 2023年3月16日付け「事務職員の共通コミュニケーションツールの選定について（通知）」でTeamsを選定

本学の附属図書館事務部におけるコミュニケーションツールについて



- 2020年4月に在宅勤務に伴い附属図書館事務部全体でSlackの利用を開始
- 2024年4月にSlackからTeamsへ移行

報告者のTeams現況

▼ あなたのチーム

- ▶  理・図書
- ▶  図・理農系
- ▶  研究支援課（附属図書館）
- ▶  附属図書館
- ▶  北大職員デジタルコミュニティ
- ▶  DX業務推進室プロジェクト

←所属担当のチーム

←所属グループのチーム

←所属課のチーム

←所属事務部のチーム

←DX業務推進室が設置する職員用チーム

←DX業務推進室プロジェクト用チーム

図書系チームのアクティビティ



期間

過去 30 日以内

2024/10/24 - 2024/11/22

名前		ユーザー	アクティブなユーザー	アクティブなゲスト	投稿	返信
理	理・図書	4	4 	0	7	49
図	図・理農系	3	3 	0	3	10
研附	研究支援課（附属図書館）	47	47 	0	17	27
附	附属図書館	99	98 	0	16	12

※2024年11月25日 Teams分析機能から抜粋し、ユーザー数を修正

- この他に学内の研修用や、附属図書館事務部のワーキンググループなど、所属チーム5つ余りが活動中です。
- なお、本学のTeamsではパブリックチームは作れません。
全てプライベートチームです。
- チームを作るまでもない場合など、グループチャットも使っています。

- 組織内でコミュニケーションツールを集約するのは望ましいことと思います。
- ただ、本学のMicrosoft包括ライセンスを取得できない職員もいますし、教員や学生とのやり取りにTeamsを使う機運は今のところ無さそうです。
- また、他機関とのやり取りはSlackなどを使うこともまだあります。

- 大きな枠組みで熟慮が必要、だから1人でできることには限りがあります。
- そもそも図書系職員には全国規模で検討する素地と実績があると思います。
- 北海道大学附属図書館の公式noteアカウントの[拙文](#)はこのような意識で書いたものです。

1. 北海道大学の事務職員におけるTeamsの受容と、DXへの個人的所感
2. 北海道大学事務DXの概要
3. すぐやるプロジェクト「事務用消耗品リサイクル」
4. すぐやるプロジェクト「事務DX推進のための電子ブック利活用について」

- この章は2024年11月8日に開設した事務DX学外広報サイト「北海道大学 事務DXメディア」から抜粋、補足して報告



- 2020年度から2021年度：附属図書館事務部からは清重周太郎が全学的な検討に参加
- 全職員を対象に「DX-SD研修」を実施
- 2022年度以降：附属図書館事務部からは長嶋と管理課図書受入・目録担当係長が参加
- 「北海道大学事務DX戦略」を策定
- 各プロジェクトの検討及び活動

プロジェクト（一部のみ報告）

- DXサポート環境の構築
- ポータルプロジェクト
- 業務の平準化・システム化

など

※附属図書館事務部が原課となるプロジェクトは
現時点では無し

すぐやるプロジェクト（一部のみ報告）

- 書類をとめるツール統一について
- 事務用消耗品リサイクル
- 事務DX推進のための電子ブック利活用について
- アバターロボットを活用した業務遂行の検証
など

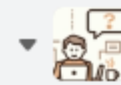


- 北海道大学 事務DXメディアのロゴには「Mind × Digital Transformation」
- Mind（考え方）の変革を促すことにより、事務DXの更なる推進に結びつける
- 2024年度から「マインド・トランスフォーメーション研修（MX研修）」を開始

1. 北海道大学の事務職員におけるTeamsの受容と、DXへの個人的所感
2. 北海道大学事務DXの概要
3. **すぐやるプロジェクト「事務用消耗品リサイクル」**
4. **すぐやるプロジェクト「事務DX推進のための電子ブック利活用について」**

事務用消耗品リサイクルの目的

- 少額かつ汎用的な消耗品の学内における偏在の解消→ unnecessaryな発注業務、経費、廃棄物の削減
- Teamsの現「北大職員デジタルコミュニティ」チームの専用チャンネル上でやり取りを進める仕組みにして、Teams利用促進のきっかけの1つに



北大職員デジタルコミュニティ

一般

00_【共有】業務お役立ち情報

01_【質問】デジタル業務環境（事務用PC...

02_【質問】アプリケーション関係

03_【共有・質問】生成AI（Copilot等）

04_【共有・質問】業務自動化（Power Au...

05_【共有】事務DXチャンネル

11_事務用消耗品リサイクル

12_電子ブック

13_職員レクリエーション活動

事務用消耗品リサイクルの基本的スタンス

- Teams専用チャネルの出品フォームに留意点を明記
- 当事者（出品者と希望者）自身が留意点に従って判断し進める、言わば相互扶助による運用を前提



11_事務用消耗品リサイクル 投稿 ファイル ★出品はコチラから★ 【出品リスト】

【事務用消耗品リサイクル】出品フォーム

<運用ルール>

- ・本取組の対象範囲は、札幌キャンパス内の事務部門とします。
- ・一式で管理する物品は、代表的な物品にのみ備品シールが貼られているため、明確に消耗品であると判断がつかないものは出品をお控えください。
- ・希望者複数の場合は、原則先着順とします。また、仮押さえはご遠慮ください。
- ・当フォームへの入力情報は、事務用消耗品リサイクル及び関連業務の検証にのみ使用します。

こんにちは、岳生。このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

* 必須

1. 所属（入力例：〇〇部〇〇課〇〇担当） *

回答を入力してください

事務用消耗品リサイクルの流れ

- ① 出品フォームはMicrosoft Formsを使用
- ② 「自動で反映」はMicrosoft Power Automateを使用
- メンションやスタンプを交えたTeamsでのコミュニケーションに親しんでもらうねらい



- 2023年5月24日に開始してから1年で
- 出品件数：75件（うち43件譲渡済）
- 譲渡数量：1,524点
- 主な譲渡品：文房具（クリアファイル、クリップ、附箋）、事務用小物、感染症対策物品など
- 譲渡品を新品購入した場合の想定費用（概算）：732,461円

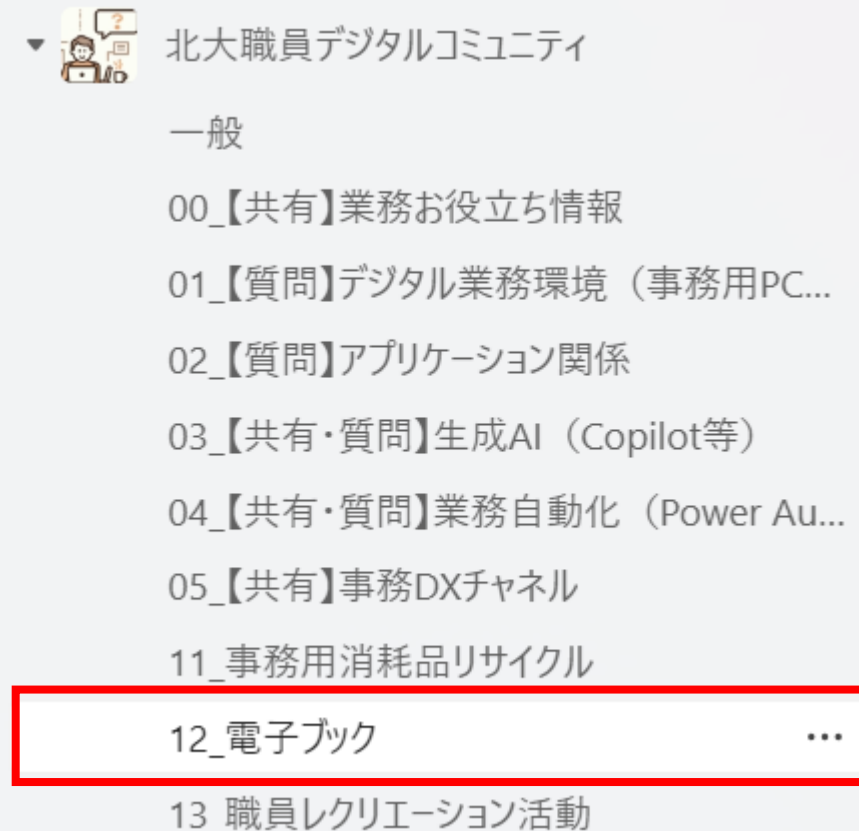
プロジェクトメンバーについて

- 報告者がリーダーで、他のメンバーは各業務系から構成されていました。
- プロジェクト立ち上げ前に既にDX業務推進室内で発案はなされていました。
- また、コーディネーターの方にご助力いただきました。
- そうした道筋が整った中で進めたに過ぎませんが興味深い経験でした。

1. 北海道大学の事務職員におけるTeamsの受容と、DXへの個人的所感
2. 北海道大学事務DXの概要
3. すぐやるプロジェクト「事務用消耗品リサイクル」
4. すぐやるプロジェクト「事務DX推進のための電子ブック利活用について」

事務DX推進のための電子ブック利活用についての目的

- DXに関する電子ブックのWeb展示企画により、電子ブックを事務職員にいっそう周知するとともに事務DX推進をサポート
- Teamsの現「北大職員デジタルコミュニティ」チームの専用チャンネルを設けて、Teams利用促進のきっかけの1つに



- Microsoft OneNoteで作成したページにて展示
- 第1弾はTeamsの電子ブックなど9点
- 第2弾はPower Automateの電子ブックなど12点
- 紹介後はどのタイトルも利用数上昇
（例えば、学内セミナーとの相乗効果と言えるかもしれないが、月間の利用が10から69に伸びたタイトルも）

- 「北大職員デジタルコミュニティ*」という全職員向けの枠組みに図書業務のチャンネルを設けられて良かったです。（*2024年11月25日現在メンバー数857人）
- 単純な企画内容ですが凝らなくて十分だったと思います。
- ただ、OneNoteが図書展示向けとは必ずしも言い難いと思います。

- 9スライド目「DXへの個人的所感」でも同じようなことを言ったつもりですが、DXを意識しなくても各自が本務の改善や効率化を目指せば自ずとDXに繋がりますと思います。
- 逆に言えばどなたの手元にもDXの芽はあると思います。

ご清聴ありがとうございました。